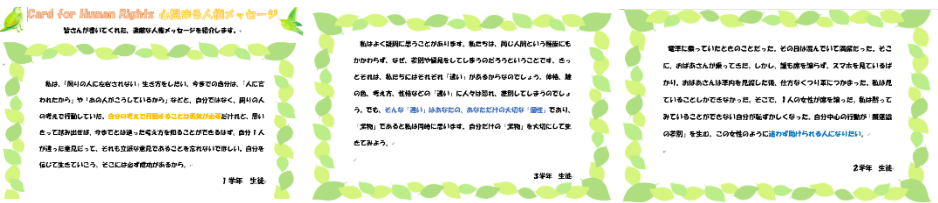
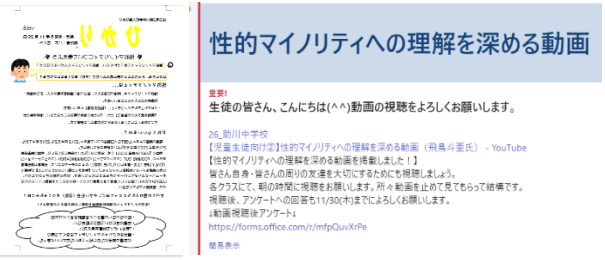


重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【人権メッセージの作成】	本年度も昨年に引き続き、学活の時間を通して人権メッセージの作成を行った。生徒たちは、自分たちの身の回りの人権課題について向き合い、どうすればみんなが過ごしやすい学級・学校・社会になるのか考え、表現することができた。  成果 自分の周囲の人との関わり方を見つめることができた生徒が多く見られた。特に、自分や他人の外見や障がいのある人への配慮について書く生徒が多く見受けられた。よって、人権課題等について自分事と捉えることができ、生徒たちの人権課題へ向き合う姿勢・関心等が高まった。 課題 人権メッセージの作成前に、どのような目的で書くのかといった動機付けがうまくできておらず、書きは始めることが難しい生徒が一部いた。作文や自己表現が苦手な生徒もいるので、そのような支援が必要な生徒に対する配慮やその具体的な方法を人権教育部で話し合い、次年度の指導につなげたい。
2 実践2 【性的マイノリティへの理解促進】	本校にも、性的マイノリティに該当する生徒が複数名おり、特別な配慮や理解を要している。多様性を尊重できる学校づくり・生徒育成のためにも、性的マイノリティへの理解促進が急務である。よって、日立市教育委員会から提示があった動画視聴による学習を行った。また、人権だより「ひかり」を発行し、学年コーナーやMicrosoft teams に掲示した。  成果 事後アンケートの結果から、「色んな思いをもった人がいることを理解することが大切」「アウティング行為をしている人は悪気はなくても、言われている人は嫌な気持ちをしているかもしれないから無自覚な発言や行動に気をつけるべき」「身近にも性のものさしが違う人がいるかもしれないことがわかった」など、生徒の性的マイノリティの当事者に対する理解度が高まった。 課題 性的マイノリティという言葉の普及とともに、生徒の理解も深まりつつある。しかしながら、性的マイノリティ該当生徒や教員が知らない「見えない性的マイノリティ」の生徒への配慮について学ぶ職員研修の機会が不十分であったと考える。来年度は、性的マイノリティに関する職員研修の機会を十分に取ったうえで実施したい。